

集落の話合いを通じた人・農地プランの作成 とプランに基づく営農体制の構築

高島農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

高島地域では集落営農組織が少なく、中小規模の個別農業者の耕作が中心で、農地の担い手集積率は44%と県平均(56%)を下回っています。

今後の水田農業を支えていくためには、集落営農組織の設立と集落営農組織を含む担い手への農地集積が必要です。

そこで、市内169農業組合を対象に、『人・農地プラン』の策定と集落営農組織の設立など実践活動の支援を普及指導センターが行いました。

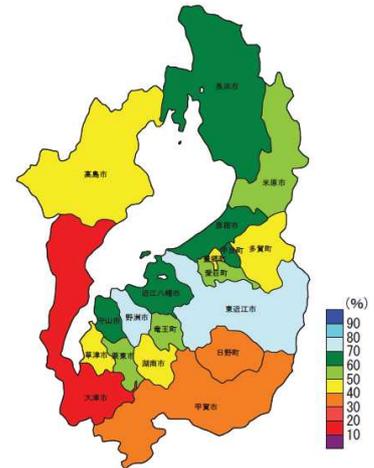


図 県内の農地集積状況

【普及活動の内容】

人・農地プランの策定については、市、農地中間管理機構、農業委員会と連携し、作成を希望する集落での話合いの実施とプラン作成支援を行いました。

集落営農組織の設立に向けては3回のセミナーを実施し、講演会、先進地研修およびワークショップを実施しました。

中間管理事業関連農地整備事業を希望している安曇川町上田中地区では事業採択に必要な営農計画作成のため、現在の耕作者の状況把握と農地整備後の農地利用計画の作成支援を行いました。また、安曇川町本庄地区では担い手間のほ場交換による農地の集約（連担化）に向けた支援を行いました。



写真 上田中ほ場整備実行委員会での検討

【普及活動の成果】

集落での話合いに基づき、13集落で人・農地プランが作成されました。さらに、集落営農組織の設立をプランに盛り込む集落が現れました。

安曇川町上田中地区では、平成31年7月までに営農計画を作成する方向で実行委員会での検討が進められています。安曇川町本庄地区では4名の認定農業者間でほ場交換の合意がされ、平成32年の耕作からほ場の集約により効率的な営農ができる見込みとなりました。

◎対象者の意見

農地整備事業に向けてさらに支援をよろしくお願いします（上田中ほ場整備実行委員会営農部会長）。